

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	東 恒仁
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	准教授
在籍年	0.5 年

教育の責任

獣医学科の専門教育において、主に衛生学分野、特に毒性学の教育を担当している。また前職までの教育経験を活かして獣医保健看護学科において薬理学分野の教育を担当している。更に獣医としての小動物の取扱い方法の基本技術の習得を目指す実験動物実習を担当している。2026 年度からは獣医学部の 1 年生対象の基盤教育科目の一部も担当する予定である。

教育の理念

大学の教育においては、「学生が自ら学ぶ姿勢の涵養」が最重要であると考えている。我々の身の回りには多種多様な化学物質が存在し、それらの中にはヒトや動物に対してポジティブな影響を与えるものもあればネガティブな影響を及ぼすものもある。これら化学物質について興味・関心を持ち、正確な知識を習得してほしい。化学物質の中でネガティブな影響を及ぼすものがいわゆる「毒性物質」と呼ばれるもので、衛生化学が主に対象とする化学物質である。衛生化学の教員として、学生には自主的かつ主体的な学習を通じて幅広い知識を吸収し、エビデンスに基づいてこれらの化学物質のリスク評価をおこない、それを社会に還元できる能力を身につけてほしいと考えている。

また薬物治療はヒトや動物の医療において極めて重要な位置を占める療法の一つである。薬理学の研究者としては、薬理学関連の講義および実習を通じて化学物質の中でポジティブな作用を持つもの、すなわち「薬」の作用機序や体内動態、用法、創薬などに関する知識や技術を在学中に是非習得してほしいと考える。そして卒後は薬や毒性物質に関する深い知識を持った獣医師/愛玩動物看護師としての活躍を期待する。

教育の方法・方針

理念を具現化するためには、受講学生の医薬品・毒性物質を含めた化学物質への興味・関心や講義・実習への積極的参加が重要である。そこで以下の方法・方針で教育を実施する。

【方法・方針 1】

受講学生が化学物質に対する興味・関心を持つきっかけを講義の中に含めるように心がける。医薬品や毒性物質の作用を単に説明するのではなく、これらの化学物質に関するエピソードや雑学等を講義の中に可能な限り盛り込む。更に講義中に教科書以外の興味深い書籍等を紹介し、希望する学生が獣医学科のコア・カリキュラムを超えた学習に取り組む機会を提供する。

【方法・方針 2】

学生が自ら課題を見つけ出し学習する機会の提供を目的に、適宜課題に対する発表会を設けるようにしている。特に実習や卒業研究では実験結果や考察をまとめた内容のプレゼンテーションを課す方針である。プレゼンテーションを介して「自分の考え」を「自分の言葉」で他者に伝える能力の涵養を図り、ディスカッションを通じてアクティブ・ラーニングや課題解決型学

習の機会を提供することで多様化社会に対応できる獣医師/愛玩動物看護師の養成につなげる。

【方法・方針 3】

学習教材の作成にあたっては、使いやすさを重視している。特に講義スライドでは文字の大きさを 18 ポイント以上（できれば 24 ポイント以上）とすると共に可能な限り自己で作成した図表を用いるなど、受講側からの見やすさに留意している。またスライド作成の際には 1 スライド/1 テーマを原則とし、必要に応じて参考文献等も記載することで復習等に活用しやすいようにしている。

教育の成果

2025 年度春期の授業アンケートでは、担当した科目の全てにおいて学生満足度が「満足」「ほぼ満足」という評価を受けており、獣医学科の教員としての教育は一定の成果を挙げているものと考えられる。また過去の授業アンケートの自由記述欄で「スライドが分かりやすい」と名指しで評価を受けたことがあり、講義スライド作成にあたっての考え方の方向性は間違っていないものと考えている。

今後の目標

環境中の化学物質はヒトや愛玩動物をはじめとする様々な生物に幅広く影響を与えることから、化学物質の生体毒性に関する対応は獣医学の分野にとどまらず、医学や農学など異分野との分野横断的な知見や連携、すなわちワンヘルス（One Health）が強く求められる。衛生化学や薬理学の教育研究にあたっては、化学物質や医薬品の毒性・作用のメカニズムの教授に専念するのではなく、衛生化学や薬理学と社会や異分野とのかかわりを意識した教育研究をおこない、ワンヘルスの概念を体得した人材の輩出に貢献したいと考えている。

また自己の専門分野である衛生学（毒性学）や薬理学に加えて、いわゆる一般教養に分類される科目に関しても可能な限り担当し、広範な知識を持つ学生の教育に努めたい。

根拠資料

授業アンケート結果

講義資料